

総合的な学習の時間

小原 広士

探究課題の解決を通して、

生活や社会と自己との関わりを深めるチャレンジ学習

I 総合的な学習の時間研究の方向性

1 主題設定の理由

新学習指導要領では、探究的な見方・考え方を働かせることが目標の冒頭に置かれており、探究的な学習の過程が総合的な学習の時間（以下、総合）の本質であることを示しています。総合における探究的な学習とは、「問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく」ことであり、このような学習を通して、「よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」を育成することが求められています。

本校のこれまでの研究では、学習展開や探究のプロセスの充実・改善、思考ツールの活用等に取り組んできました。その成果として、児童が主体的・協働的に問題解決を進められたことが挙げられます。全国学力・学習状況調査（令和元年度）の「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」の項目では、8割以上の児童が肯定的な回答をしており、総合における学習の進め方が定着していることもうかがえます。

一方、児童が自分の生き方と探究課題とを関連付けて考えることについては課題があると考えます。生活や社会との関わりにおいて自分は何をすべきかを考えたり、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりすることは、総合で育成する資質・能力につながるものであるとともに、実社会・実生活においても重要であると考えました。

そこで、研究主題を「探究課題の解決を通して、生活や社会と自己との関わりを深めるチャレンジ学習」と設定しました。児童の実態に即した探究課題や単元を構想し、探究的な学習の過程を一層重視することで、児童が、自身を取り巻く生活や社会との関わりを見だし、生き方を問い続けられるような学習を目指します。

2 目指す児童の姿とその具体

身近な人々や社会，自然と自己とのつながりを考え，自己の生き方を問い続ける児童

「身近な人々や社会，自然と自己とのつながりを考え」とは、身近な人々や社会，自然と自己とがどのように関わっているかを常に考え、それらの関係性を見いだすことです。

「自己の生き方を問い続ける」とは、身近な人々や社会，自然との関わりにおいて自分は何をすべきかを考えたり、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりする「自己の生き方を考える」中で、新たな課題を生み出していくことです。

Ⅱ 研究内容の具体

1 自己の生き方を問い続ける単元構成の改善

「自己の生き方を問い続ける」ためには、児童が、身近な人々や社会、自然との関わりにおいて自分は何をすべきかを考えることが重要です。そのためには、学習活動を通して自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりする中で、新たな課題を生み出せる単元構成にする必要があります。本校の総合の教育課程には、30時間程度の単元が多く位置付けています。しかし、前年度の研究から、児童が「自己の生き方を問い続ける」ためには、上記の授業時数では学習活動が足りず、新たな課題が生み出されにくいことが明らかになりました。

そこで、単元を70時間程度の大単元に改善するとともに、探究のサイクルを3回から5回（発見過程、追究過程、提案過程（追加）、熟成過程（追加）、表現過程）とし、自己の生き方を問い続けていくことができる構成としました。

探究課題によっては「発見過程→提案過程→熟成過程→追究過程→表現過程」の流れになることも考えられる。

《自己の生き方を問い続ける単元構成の視点》

1次:発見過程	単元の学習対象に興味・関心をもちながら、学習対象を捉える過程
2次:追究過程	単元の学習対象を更に追究し、学習対象に対する考えをつくる過程
3次:提案過程	追究過程でつくった考えを基に、自分事として地域や社会への提案を考える過程（追加）
4次:熟成過程	提案する内容と方法を高め、学習対象に対する考えを深める過程（追加）
5次:表現過程	学習対象に対する考えをまとめ、身に付けた資質・能力をメタ認知する過程

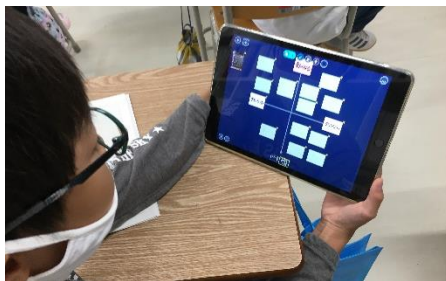
2 自己の生き方を問い続ける「整理・分析」

児童が自己の生き方を問い続けていくためには、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたりすることが重要です。そこで、「整理・分析」の場面における、ロイロノート・スクールの活用の仕方について研究を進めました。

《ロイロノート・スクールの活用》

○思考ツール

- 個人で情報を整理したり、分類したりする場面で、思考ツール機能を活用する。



【思考ツール（座標軸）を使って情報を再整理する児童】



【提出箱に出された友達の考えを自分の考えと比較しながら確認する児童】

○提出箱

- 整理した情報、思いや願い等をグループや全体で共有する場面で、提出箱機能を活用する。

※ロイロノート・スクールでは思考ツールをシンキングツールと呼んでいます。

3 探究課題と自己との関わりを捉える振り返り

総合的な学習の時間においては学習が長期に渡るため、そのプロセスを振り返ることのできる学びの跡の蓄積が大切です。評価に当たっては、以下のような振り返りを工夫し、状況に応じた指導や助言、称賛をして、指導に生かしてきました。

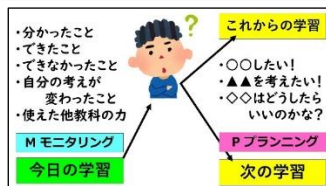
《振り返りの内容》

○毎時間、振り返る視点を明確にし、文章で記述する。

※児童の気付きや変容、自覚について見取り、教師のコメントを記入する。

※学習の流れに関わる記述を押さえ、授業でフィードバックする。

【例】導入での紹介



【毎時間、振り返る視点】

《2年次研究の重点》

○自己の生き方を問い続ける単元構成の改善 ○自己の生き方を問い続ける「整理・分析」

III 研究実践

3 年生実践 『旭川の自慢調査隊』

実践のテーマ：ロイロノート・スクールの機能を活用することを通して、
動画の課題に気づき修正点を明らかにする学習

1 研究授業のねらい

本単元のねらいは、旭川市の自慢と呼ばれる場所を調査したり動画配信をしたりすることを通して、旭川市の特徴や旭川市を支える人たちの想いや願いを理解し、旭川市の魅力が伝わる動画の在り方について考えるとともに、日常を見つめ直し、自己のこれからの生き方を考えようとする事です。

事前調査の結果から、本学級の児童の多くは、旭川市に対して愛着をもっていることが明らかになりました。また、自分たちが住んでいるまちのよさについて知りたいという思いや、広く伝えていこうとする意識が高いことも分かりました。一方で、観光資源として観光客の誘致に活用している「旭川市の特長」についての理解が漠然としていることが明確になりました。

旭川市はここ数年、観光客の増加傾向にありましたが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、減少は免れない状況です。そこで、「観光客を増やして旭川市を元気にする」という目的に向かって学ぶことを通して、「旭川市の特長」についての理解を深めるとともに、市民の努力や愛着によって支えられているまちであることを知ることができると考えました。また、自分たちにとって身近な課題を追究することにより、日常を見つめ直し、自己の生き方を考えることもできると捉え、教材化しました。

2 単元の指導計画（75時間扱い）

附属旭川小学校「旭川の自慢調査隊 ～ YouTuberになって旭川の自慢を発信しよう！～」単元計画【第3学年・65時間+10時間（国語と関連）75時間】								
探究課題：町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織（町づくり）								
単元のゴール：「旭川市の自慢を調べて、観光客に伝えよう！」								
1次 発見過程 単元の学習対象に興味・関心をもちながら、学習対象を捉える過程：【発見過程のめあて】→「新しい旭川の自慢を見つけよう」	【課題の設定】(6月) ◇単元のゴールを設定する ・「旭川市の自慢を調べて、観光客に伝えよう！」 ◇発見過程のめあてと学習計画を立てる ・「新しい旭川の自慢を見つけよう」 ・アンケートで旭川の自慢を調べたい	【情報の収集】(7月) ◇附属旭川小学校の保護者にアンケートを配布する ・4つの項目「場所」「自然」「歴史」「交通」の「旭川の自慢」を調査したい	【整理・分析】(7月) ◇アンケート結果を整理する ・社会で学習したこと以外にも、旭川市には自慢できるところがたくさんあるんだ	【まとめ・表現】(7月) ◇1次の学習を振り返り、新たな課題を設定する ・「旭川空港」「旭川駅」「神居古澤」「旭橋」「動物園」「サイバル」の自慢を調査しよう ・調査した自慢をどうやって発信したらいいのかな？	【振り返り・知の更新】 アンケート結果から、旭川市には、自慢できることがたくさんあることが分かった。その中から、旭川駅、旭川空港、旭橋、神居古澤、旭山動物園、旭川市科学館サイバルの6か所を調査したい。	社会「学習内容」との関連		
2次 追究過程 単元の学習対象をさらに追究し、学習対象に対する考えをつくりたり、提案する内容や方法を調べたりする過程：【追究過程のめあて】→「旭川の自慢を発信する方法を決めよう」	【課題の設定】(8月) ◇「追究過程のめあて」と学習計画を立てる ・自慢を発信する方法（手段）を決めたい ・GTから発信方法（手段）について学びたい	【情報の収集】(8月) ◇GTから発信方法（手段）を学ぶ ・発信方法は、パンフレット、ポスター、地図、ウェブサイトがあることが分かった ・それぞれの「メリット」「デメリット」が分かった	【整理・分析】(8月) ◇収集した情報を整理・分析し、自慢を発信する方法を決める ・協力して取り組めることができ、自分たちでも可能な発信方法は「動画」だ	【まとめ・表現】(8月) ◇2次の学習を振り返り、新たな課題を設定する ・発信方法の「メリット」「デメリット」がわかった ・どうやって「動画」を作成したらいいのだろう ・撮影する前に、どのような準備をしなければならないのだろう	【振り返り・知の更新】 自分たちが自慢を発信する方法として一番よいのは「動画」だとわかったよ。でも、どうやって「動画」を作成したらいいのだろう。また、撮影する前に、どのような準備をしなければならないのだろう。	国語「学習内容」、社会「(資質・能力)との関連」		
3次 提案過程 追究過程でつくれた考えを基に、自分事として地域社会への提案を考える過程：【提案過程のめあて】→「動画撮影の仕方を知り、撮影の準備をしよう」	【課題の設定】(9月) ◇「提案過程のめあて」と学習計画を立てる ・動画の作り方を知りたい ・GTから撮影前に準備することを知らりたい	【情報の収集】(9月) ◇GTから動画の作り方や撮影方法を学ぶ ・撮影前の準備が大事だ ・調査活動の前に、調べることや質問を明確にすべきだ	【整理・分析】(9月) ◇GTから学んだことを整理する ・撮影前に現場の取材先、絵コンテづくりに取り組まなければならない ・全国の小学生（4～8年生）に向けて動画を配信しよう	【まとめ・表現】(9月) ◇3次の学習を振り返り、新たな課題を設定する ・動画撮影の仕方を知った ・動画の流れが決まらないので、撮影前に取材に行かなければならない ・取材する場所にはどんな「自慢」があるのだろう	【振り返り・知の更新】 動画撮影の仕方や、撮影準備の仕方が分かったよ。動画の流れが決まらないので、撮影前に取材に行かなければならない。次は取材場所をしよう。	国語「(資質・能力)との関連」		
4次 熟成過程 提案する内容や方法を高め、学習対象に対する考えを深める過程：【熟成過程のめあて】→「旭川の自慢を取材し、動画を作ろう」	【課題の設定】(9月下旬) ◇「熟成過程のめあて」と学習計画を立てる ・担当場所の自慢を知るために、取材に行こう ・動画撮影に向けて「絵コンテ」「台本」等を完成させよう ・GTから「撮影テクニック」を学びたい ・動画撮影に行こう	【情報の収集】(9月下旬～10月上旬) ◇取材に行き、取材場所の自慢を調査する ・取材場所は、たくさんの自慢があった ◇GTから「撮影テクニック」を学ぶ ・撮影するための理論や技術が分かった	【整理・分析】(10月中旬) ◇集めた情報を整理し、動画の流れを完成させる ・どの自慢を伝えたら、取材場所の魅力が伝わるだろう	【まとめ・表現】(10月中旬～下旬) ◇動画撮影を行う ◇4次の学習を振り返り、新たな課題を設定する ・絵コンテや動画撮影を行う ・決められた時間の中で旭川市の「自慢」を伝えるにはどうやって編集したらいいのだろう	【振り返り・知の更新】 取材、シナリオづくり、動画撮影を通して、旭川市の「自慢」についての理解が深まったよ。また、それぞれの撮影場所の「自慢」を知ることを通して、共通点や関係性が見えてきたよ。	国語「学習内容」、社会「(資質・能力)との関連」		
5次 表現過程 学習対象に対する考えをまとめ、表現するとともに、身に付けた資質・能力をメタ認知する過程：【表現過程のめあて】→「旭川の自慢動画」を発信しよう	【課題の設定】(10月下旬) ◇「表現過程のめあて」と学習計画を立てる ・動画を完成させよう ・GTから「編集の仕方」を学びたい ・アンケートをもとに動画を改善したい ・動画配信会を開催しよう	【情報の収集】(11月上旬) ◇GTから「編集の仕方」を学び、編集する ・「分かりやすくするには、文字や間が欠けた」	【まとめ・表現】(11月中旬) ◇完成動画を附属旭川小学校HPにアップする	【情報の収集】(11月上旬～12月上旬) ◇HPにアップした動画を保護者に視聴してもらい「良い点」「改善点」についての意見をもつ ◇動画を完成させる	【整理・分析】(12月上旬) ◇動画配信会の準備をする ・これまでの学習で自分の学びがことは○だった ・これからは△したい	【まとめ・表現】(12月中旬～下旬) ◇動画配信会を行う ◇完成動画試写会に参加していただいた方のアンケートを分析し、自分たちの活動の意味や価値を考える ◇これまでの学習を振り返る	【振り返り・知の更新】 旭川市の特長には関わりがあり、それらが関連付けて現在の旭川市が構成されていたよ。旭川市の「自慢」は、歴史、働く人たちの努力や愛着によって支えられている。これからは、旭川市民として、旭川の「自慢」を見つけて発信し続けたい。	国語「(資質・能力)との関連」

【単元の振り返り】(期待する姿)
 ・アンケート結果から、旭川市には、自慢できることがたくさんあることが分かった。その中から、旭川駅、旭川空港、旭橋、神居古澤、旭山動物園、旭川市科学館サイバルの6か所を調査しよう（1次：発見過程）
 ・自分たちが自慢を発信する方法として一番よいのは「動画」だとわかったよ。でも、どうやって「動画」を作成したらいいのだろう。また、撮影する前に、どのような準備をしなければならないのだろう（2次：追究過程）
 ・動画撮影に向けて準備をしなければならないことが分かった。撮影現場での発見をもつこともできた。最初に取り組まなければならないのは、動画の流れを決めることだ。そのために、撮影場所に取材に行こう（3次：提案過程）
 ・取材、シナリオづくり、動画撮影を通して、旭川市の「自慢」についての理解が深まったよ。また、それぞれの撮影場所の「自慢」を知ることを通して、旭川市の自慢の「共通点」や「関係性」が見えてきた。（4次：熟成過程）
 ・旭川市の特長には関わりがあり、それらが関連付けて現在の旭川市が構成されていたよ。旭川市の「自慢」は、歴史、働く人たちの努力や愛着によって支えられている。これからは、旭川市民として、旭川の「自慢」を見つけて発信し続けたい。（5次：表現過程）

3 本時の学習

(1) 本時の目標

整理した「アンケートフォームから収集した回答」を基に考えた個々の「修正点」を交流することを通して、作成動画の「良さ」や「課題」の原因，これから取り組むべきことに気付くとともに，自分たちが見付けた「自慢」を多くの人たちに理解してもらうための「グループ動画の修正点」を決めることができる。【思考・判断・表現】

(2) 本時の展開（全体：75時間扱いの59時間目，5次（表現過程）：21時間扱いの6時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1 前時を振り返る（2分）。 ・アンケートフォームから収集した回答を整理した（担当分）。 2 本時のめあてを確認する（3分）。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> グループ動画の「修正点」を決めよう。 </div>	・ロイロノートを使って，児童の振り返りを数名紹介し，本時の学習活動を意識させる。
3 本時の学習の見通しを立てる（5分）。 4 座標軸（思考ツール）を使って動画の「修正点」を決定する（20分）。 【予想される各グループの修正案の一部】 「旭川駅」 ・動画で紹介した自慢の説明を追加する。 「旭川空港」 ・お菓子の動画をカットし，あべひろしさんの説明を追加する。 「神居古潭」 ・魔神の神話についての説明を追加する。 「動物園」 ・行動展示を取り入れるようになった理由を追加する。 「旭橋」 ・ロッキングカラムの説明を追加する。 「サイパル」 ・アトラクションの動画を増やす。 5 グループの考え（決定した修正点）を提出箱に出し，全体で共有する（5分）。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◇自己の生き方を問い続ける「整理・分析」 研究視点2 ・ロイロノートを活用する。 ・「修正点」を決定する話合いの前に，GTの資料を児童に送付し，議論の視点を確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【思考・判断・表現】 ・集計した回答を整理したり分析したりして（比較・分類・関連付け等），動画の修正点を考えている。 （発言内容・行動観察） </div> ・グループの「座標軸」をロイロノート・スクールの提出箱に送らせる。 ・提出箱に入った「座標軸」を確認するよう伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分たちの動画には「自慢といえる理由」を説明したり気付かせたりする映像や資料が足りなかった。限られた授業時間，残された動画の秒数の中で修正できることは限られているが，これからみんなで力を合わせて修正し，完成させよう。 </div>	
6 次時の学習を確認する（1分）。 ・動画を修正して完成させる。 7 学習を振り返る（9分）。 ・修正点を決定することができた。 ・自慢と言える理由を説明する動画が足りなかった。 ・みんなで力を合わせて動画を完成させたい。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◇探究課題と自己との関わりを捉える振り返り 研究視点3 ・話合いが必要なグループは，話合い終了後，振り返りに取り組ませる。 </div>

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

○交流を通して，自分たちが見付けた「自慢」を多くの人たちに理解してもらうための動画の修正点を考えて決定する姿

4 授業の実際

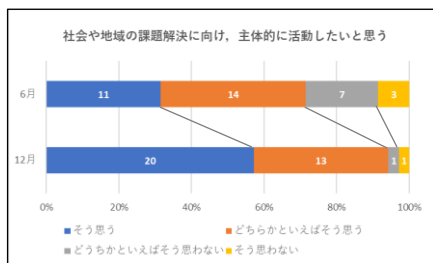
自己の生き方を問い続ける単元構成の改善

本実践においては、本校の教育課程に位置付けていた従来（左下枠）の単元を、1年次に位置付けた「探究の課題の3要件（人・もの・こと）と3つの改善の視点（現実、価値、貢献）」を用いて整理し、探究課題を「旭川市の活性化に取り組む人の姿と自分にできること」と設定しました。また、5次構成の大単元（右下枠）に改善し、児童が、発信方法について情報を収集し、自分たちの実態と照らし合わせて内容を決定する時間（提案過程）や、決定した内容について学習する時間（熟成過程）を新たに加え（右下枠の下線）、これまで以上に自己の生き方を問い続けられるような構成にしました。

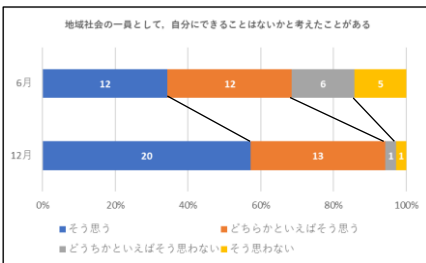
<p>《従来》（3次構成 30時間程度）</p> <p>【単元のゴール】</p> <p>旭川の「良さ」を発信しよう。</p> <p>1次 「旭川の「良さ」とは何だろう」 ・街頭インタビュー</p> <p>2次 「旭川の「良さ」を探ろう」 ・調べ学習（インターネット、インタビュー、ゲストティーチャーから学ぶ）</p> <p>3次 「旭川の「良さ」を発信しよう」 ・新聞作り、プレゼン作り、交流会</p>

<p>《本実践》（5次構成 70時間程度）</p> <p>【単元のゴール】</p> <p>旭川市の自慢を調べて、観光客に伝えよう。</p> <p>1次 「新しい旭川の自慢を見付けよう」 ・アンケート調査（保護者）</p> <p>2次 「旭川の自慢を発信する方法を決めよう」【提案過程】 ・発信方法を「動画」に決める</p> <p>3次 「動画撮影の仕方を知り、撮影の準備をしよう」【熟成過程】 ・撮影や編集方法をゲストティーチャーから学ぶ</p> <p>4次 「旭川の自慢を取材し、動画を作ろう」 ・取材場所の自慢を調査し、動画撮影を行う</p> <p>5次 『旭川の自慢動画』を発信しよう ・アンケートを基に動画を修正する ・動画披露会を行う</p>
--

上記の手立てによって、自分が何をすべきかを考えたり、自分の考えを深めたり、自分の人生や将来について考えたりする中で、新たな課題を生み出していく児童の姿が見られました。以下に、「児童質問項目」の結果とA児の振り返りの記述（単元の最後に実施）を示します。なお、「児童質問項目」は日本生活科・総合的学習教育学会誌第22号に掲載されたものを活用しました。



【質問項目の結果①】



【質問項目の結果②】

④4年生になったときのチャレンジでは、もっと旭川のじまんをつたえたいと思います。こんかいは6つのじまんだけだったのでもかのじまんでできる場所もあると思っただけです。これから、旭川でじまんができる場所だと考えたものをかんこうきゃくにつたえつけて、旭川を人気にしたいです。

【単元後のA児の振り返り】

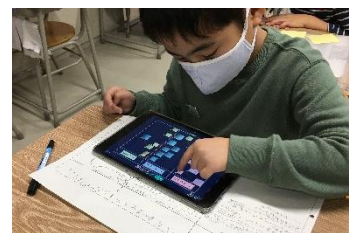
このように、単元を70時間程度の大単元にし、探究のサイクルを5回サイクルにすることは、児童が自己の生き方を問い続ける上で有効であったと考えました。

自己の生き方を問い続ける「整理・分析」

本時では、ロイロノート・スクール（以下、ロイロノート）を使って、グループ毎に、自分たちが制作した動画の修正点を話し合いました。

話し合いに向けて、前時では「アンケートフォーム（以下、アンケート）から収集した回答」の整理を行いました。アンケートには、各グループが制作した6本の動画を視聴した保護者が感じた「良かったところ」や「もう少しだと感じたところ」が入力されていました。

それぞれの動画に寄せられた回答は約80件、それらをグループ毎に役割分担をして集計しました。まず、一人一人がロイロノートの「PMIシート」（思考ツール）に「P：良かったところ」、「M：もう少しだと感じたところ」を入力し、意見を整理しました。次に、それらを参考にしながら、動画の修正すべき所を考え、「I：動画の修正点」に入力しました。このような活動の場面では、これまでワークシートに書かれた「PMIシート」を使って情報を精査していました。初めてロイロノートの「PMIシート」を活用したB児は、「カードを移動す



【アンケートを集計するB児の姿】

ることができるので、ワークシートするときよりも見やすいし便利。また、情報を比較したり、関連付けたりしやすいので、新たな考えが生まれやすい。」と振り返りに書きました。

本時は、前述の通り「座標軸」(思考ツール)を使って作成動画の修正点をグループ毎に決定しました。話し合いでは、一人一人のICT機器に同じ「座標軸」を映し出しました。その「座標軸」には、動画の修正点を書かれたカードが入っていました。これは児童が前時に考えたものです。そのカードを移動させたり、必要がないものを削除したりしながら、動画の修正点を決定しました。

話し合いの前半は、自分のICT機器に映し出された「座標軸」を見ながら、児童は動画の修正点を考えました。しかし、議論が活発になるにつれて、どのカードの内容について話しているのかが分からなくなり、カードを探すことに集中してしまう児童が見られました。また、座標軸の2つの軸に位置付けた観点に沿ってカードを移動する場面では、どのカードをどこに動かせばよいのかが分からず混乱する児童も見られました。上記の課題に直面したCグループは、1つのICT機器に顔を寄せ合いながら「動画の修正点」を決めました。

このような前時と本時の児童の姿から、児童が自己の生き方を問い続けるための手立てとして整理・分析の場面でロイロノートの思考ツールを活用することは、収集した情報を個人で整理するような場面では、効果があったと考えました。一方で、グループで話し合うような場面では、考えを共有することに難しさを伴い、有効ではなかったと判断しました。今後は、ロイロノートの特徴を分析し、それが効果的に発揮される場面を明らかにしていく必要があります。また、他の学習支援アプリについての知見を深め、学習活動で活用していく必要もあると考えます。



【完成したA児のPMIシート】



【座標軸を使って話し合う児童の姿】



【Cグループの話し合い前の座標軸】



【Cグループの話し合い終了後の座標軸】

IV 2年次の研究の成果と課題

2年次研究では、「自己の生き方を問い続ける単元構成の改善」と「自己の生き方を問い続ける『整理・分析』」を重点として研究を進めてきました。

1 研究の成果

- 単元を70時間程度の大単元にし、探究のサイクルを5回サイクルにしたことは、児童が自己の生き方を考える中で、新たな課題を生み出していくことにつながりました。
- 収集した情報を個人で整理するような「整理・分析」の場面で、ロイロノート・スクールの思考ツールを活用することは、児童が自己の生き方を問い続けるために有効であることが明らかになりました。
- 毎時間、「M:モニタリング」「P:プランニング」の視点で振り返りを実施し、記述したものを蓄積していきました。そのことによって、児童が自身の学びの過程を振り返り、自分に必要な学習を見いだすことにつながりました。

2 今後の課題

- 本校の教育課程に位置付く他の単元も、探究のサイクルが5回サイクルの70時間程度の大単元に改善していく必要があります。
- 「整理・分析」以外の学習過程でも、ロイロノート・スクールや他の学習支援アプリの有効な活用の仕方について明らかにする必要があります。

V 参考文献

- 課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法 鈴木敏恵 教育出版 平成24年2月
- 日本生活科・総合的学習教育学会「せいかつ&そうごう」 日本生活科・総合的学習教育学会 平成27年3月